

令和7年度 就労支援部会学習会「障がいのある人の『働く』と『就労選択』を考える」 報告(峯)

- 1 日時 令和7年10月6日(月)10:00~12:00
- 2 場所 乙訓福祉施設事務組合会議室
- 3 主催 乙訓圏域障がい者自立支援協議会 就労支援部会
- 4 参加者 39名 (申し込み:会場16名 Zoom7名 部会委員14名 事務局2名)
- 5 目的 新しく始まる就労選択支援事業を学び、支援者が一般就労に向けたプロセスの理解を深める。

6 内容
講演「障がいのある人の『働く』と『就労選択』を考える」 ジョブジョイント大阪 星明 聡志 氏

○講師自己紹介

○就労選択支援について

厚生労働省の「就労選択支援について」の資料を基に、

- ・制度の概要や理念について説明。
- ・選択支援の対象者や流れ、選択支援事業所や相談支援事業所の役割。

○就労アセスメントについて

- ・手法や行動アセスメントについて
- ・ニーズアセスメントについて

○まとめ

- ・「多様性と自己決定の本質」をどう考えるか。就労選択支援では選択を支援するサービスである。本人が自分で選んで自分で決められるようにサポートするのはとても難しいことだが、就労選択支援事業の本質、理念は大事にしていく必要がある。

「日々の支援で大切にしていること」 乙訓ひまわり園 川崎 勇介 氏

○就労選択支援が始まるにあたって

- ・工賃並びに作業内容、支援力共に魅力的な事業所に進化させていき、選ばれる、働いてみたいと思ってもらえる事業所にしていく必要がある。

○乙訓ひまわり園の就B事業の作業内容、支援で大切にしていることについて

- ・アセスメントによる、本人の希望や能力に合った作業について
- ・就Bから生活介護への移行や、生活介護からのステップアップについて 等

○今後の展開について

- ・利用者の希望や思いを聞きながら、働く機会を増やし、収益を得ることで工賃向上を目指す。古い設備を新しい機械に変えるなど、ランニングコストを見直して費用を削減することで利用者への還元を目指している。

質疑応答

Q.就労選択支援事業について、本人が就労選択できるように進めていくということだが事業所の絞り込みまでをするのか、それとも就労継続支援A型(以下、「就A」という。)、就B、一般就労といったところを選択できるように進めていくのか教えていただきたい。

A.制度上は本人が自分の就労先や働き方を自分なりに選択できるようにするという事なので、こういう環境でこういう作業があれば良いのかという話になると思う。希望する職種に必要な力をアセスメントし、できそうで

あれば希望する職種の事業所に行くのもひとつ。福祉サービスが良いのか一般就労が良いのかということを選択できるようにするまでサポートできても良いが、自治体の考え方にもよると思う。イメージとしてはふんわりとした感じでアセスメントがまとまる感じにいる。どこの事業所が良いか、一般企業がが良いのか福祉サービスが良いのかもどのくらいアセスメントシートに書くのか等、制度上はそこまで求めていない感じがある。就労選択支援は福祉サービス選択支援ではないのかなという話にはよく出ている。どんな環境でどんな風に働けるのかを、本人と一緒に考える先に就Bが良いのかどうかを本人が自分で選ぶという感じになると思う。

Q.1か月という短い期間の中でどこまでできるのか。実際に事業所の見学や体験をしてみないとわからないところがあるように思う。どこまでのことができて、その中で本人が選ぶというところが意思決定支援のところ考えたと間に合うのかなと感じている。

A.10月から就労選択支援事業が始まるが、直ぐに就労選択支援事業の理念に沿ったサービス提供ができるとは思っていない。もう少し先になると就労選択支援事業の進め方も変わってくるかと思う。本人の能力や適性、合う職場環境と一緒に考えながらの1~2週間で就労選択支援を行う。本人の希望も聞きながら、こういう仕事内容だと力が発揮できそうだと示唆する形でアセスメントシートをまとめて本人と家族に返す。それを見ながらどんな就Bだったら良いのかを探していくことになる。就労アセスメントがいきなり就労選択支援事業の理念のもとにうまく進むというより、当面は就労アセスメントに近い形ではないかと思っている。あとは地域による。本人が自分で上手に決められない場合に、社会資源を提示したり、こういう環境なら力が発揮できるということと話しながら進めていくと、自分の力を発揮できるようになると思う。それを就労選択支援でやっていくことが一番望ましいと思っている。現時点では「この就Bが良い。」と言ってあげた方が良くかもしれない。それが良いかどうかは地域による。

Q.今回の就労選択支援のところで現実と本人に沿ったアセスメントをしていくというところは大切な本人にとっての情報になると思う。それが就Bや一般就労といった本人のその後はどう上手くりできるのだろうか。例えば就労定着支援等に繋がることはあるのだろうか。

A.今回、就労選択支援事業は就労アセスメントの手法を活用して本人のできることや伸びしろ等の可能性を専門的に見ていき、地域の関係機関に引き継いで繋いでいくという話になっている。就労選択支援事業が始まると働くことの可能性を皆で考えられる良い機会になると思う。色々なところに引き継ぐことで、色々な働き方をする障がいのある方が増えてくるように思う。引き継ぎをして情報共有することは望ましい未来だと思っている。

Q.計画相談も一般相談もしている。なかなか就労に繋がらない方で人間関係が上手くいかず仕事を転々とされていたり、自宅で長い間家族と一緒におられ両親が相談されたり、福祉サービスを使っておらず本人の情報が家族しかない方等に一般就労なのか就A、就B、生活介護なのか、長い時間をかけて何度も面談し、ここだと思い挑戦すると違っていたということがある。繋ぐことができないケースもたくさん経験している。そういう時に制度が役立ち、並走してもらえるのかなと期待しているが、期間が1か月というところでイメージできないところがある。その点について教えていただきたい。

A.そういう方も対象になると思っている。ただ、サービス量が増えるので自治体によって色々な見解があると思う。福祉サービスに繋がらない、離転職を繰り返し定職につかない方等はたくさんいる。そういう方達に働く力がどういふことか、合う職場環境はどういふところなのか、福祉サービスがあるから一度1か月だけ使ってみようという話をしていくことは悪い話ではない。ただ期間が1か月、通所期間は2週間ぐらいのイメージとして本人のタイミングで通うことができるのか。対人恐怖があり就労選択支援事業所に通えない、全く関係性のない職員にアセスメントされることが難しい方等、色々な方が対象になる。自治体にもよるが一度利用してみて途中で通えなくなると就労選択支援事業は複数回使えるとなっているので一旦中断し、また再開するのも良いと思う。

何回か利用すると少しずつ本人の自己理解が促されていくこともあるように思っている。自己理解するにはとても時間がかかる。そのために何度も就労選択支援を使う方がいても不思議ではない。使えば使うほど支給量が増えるため、自治体側の支給決定がどうなのかという問題はあられるかもしれない。

Q. 本日不参加の方からの質問。就労選択支援事業所では具体的にどんなサポートをされているのか教えてほしい。
A. 就Aや就Bの場合、作業を介して工賃を支払う。基本的には現場の作業を利用者とやっていくことになる。一般企業での就職と考えると職場を見学しないと就労支援は進まない。就労支援にはプロセスが決まっており、その通りを行うと上手くいくというのは明らかにされている。それに習って順番にやっている。本人と職場のマッチングを考えるには、本人も自分で職場を見に行き、自分に合うか合わないかを確認しながら、支援者もその様子を見て行動観察を行う。一般企業への就職を目指していくのであれば、施設外での活動を充実させていくことが重要だと思う。

Q. 一般就労で利用者が減ると、次の利用者がなかなか決まらない状況になる。どのように利用者を集めておられるのだろうか。

A. その点は苦勞している。良い方法というのはわからないが、作業が魅力的ということでも良いし、工賃の金額、立地や送迎というサービスの内容があるかもしれない。強みを見せながら利用者集めをするしかないと思っている。

Q. 高齢になってきた利用者や一般就労が難しくなった利用者、働くための準備に時間が必要な利用者等、就労継続支援で仕事を続けたいという利用者がある。就労継続支援を長期間利用する働き続ける場として、居場所としての就労継続支援としても良いのだろうか。

A. 就A、就Bも作業する場である。就Aの方にとっては職場になる。そこで長く働くことがだめなわけではない。広い意味で考えると世の中の的には人手不足、労働力が減っている。また障がい者雇用を進めている企業が増えている。働くチャンスが高まっているように思う。障がい者が多様に働くことをもっと実現しても良いと思っている。就Bに行きながら週2日は一般企業で働く等、就Bで頑張って工賃をあげることも大事な一方で、就職をした方は手取り収入が増える可能性がある。多様に働くということが、より多様であった方が良い。多様という意味をもっと多様にとらえた方が良く思っている。もう少し混ぜ合わさった社会の方が、障がい理解も進むと思う。ひとりひとりに合わせた形で、それを社会が受け入れる。少しずつインクルーシブが進んでいく方が良く思っている。適切か不適切かは言いにくい、福祉サービスなので日中活動という意味も当然ある。就A、就Bを日中活動とするのは良いと思う。

7 アンケートまとめ (回答 16件)

1 就労選択支援事業について学びましたか。

わかった 37.5%・受講前よりはわかった 56.3%・わからない 0%・どちらともいえない 6.3%

2 一般就労へのプロセスの理解は深まりましたか。

理解できた 68.8%・理解できなかった 0%・どちらともいえない 31.3%

3 本研修について、ご意見・ご感想のご記入をお願いいたします。

(1)「障がいのある人の『働く』と『就労選択』を考える」について

・就労アセスメントが、障がい者との共同によって作成されるというのはとても良いと思いました。質問にもありましたが、アセスメントをしてどういった就労先が良いかを一緒に考えてくれるのは良いのですが、具体的な就労先と一緒に探すわけではないので、就労についてどこまで相談したら良いのか、学校や相談支援事業とどのように連携してもらえるのか、よくわかりませんでした。

- ・お話を聞き、アセスメントが単なる評価ではなく、就労について本人の希望を引き出すことも大切な要素であると思いました。本人のパフォーマンスを引き出すため、対人面を含め、環境や場面ごとに必要な事をきめ細かくチェックすることは、本人にとっても支援者にとっても有意義であると思います。そういう理想的なアセスメントが実現してほしいです。
- ・流れやポイントはよくわかりました。アセスメントが終わり、就B利用を選ばれたあと、本人にあった就Bをどう選んでもらうかもとても大切な点だと思いますが、そこをどう進めるのか、中立性をどう確保していくかの部分が計画相談としては知りたいところです。(これからなんだろうとは思いました。)
- ・障害の種類や程度によって、就労の方向が違ってくるように思います。受け入れる側が、どこまでその障害について理解があるか、本人と関わる現場の方がどこまで理解してもらえるのかが必須だと思います。
- ・就労選択支援事業についての理解が深まりました。始まったばかりの事業なので、これからどのようにしていくのか注目したいと思います。
- ・就労選択に変わった事で、利用者に情報が入り、実際に働くを経験する事で利用者は自分がやりたい事を見つけ、決定して行くプロセスへ進化した事で、今後多くの方が自分のやりたい仕事や合っている仕事に関われるようになることに期待が持てました。
- ・今年度初めて高3生を担当しており、就Bアセスも初めてだったので、今年度を振り返りながら就労選択支援について深められることができました。
- ・今回の研修を通じて、本人や家族が選択出来るように就労選択支援の必要性や情報提供の大切さを考えさせられました。利用者の選択肢の一つとして、今後も就労支援に関わっていきたいです。
- ・就労選択支援の仕組みと、なぜ取り入れていくのかについて、理解できました。うまく実現していけるよう、地域で作り上げる必要があるように感じました。働き方の多様性が広がるよう、相談支援に携わる立場として、考えを柔軟に持てるようにしたいと思いました。
- ・当方のZOOMの音声が悪く聞き取れなく分かりづらかったのですが、スライドで流れを説明して頂いたので相談支援としての関わり方が前より理解できました。高槻市での取り組みとありましたので、乙訓圏域でも同じように取り組めるのか、行政区の考え方で一般就労に繋がる・繋がらないの差が出るように感じました。
- ・就労選択支援が日々の支援にどのような影響を及ぼすのか、動向を見ていきたい。
- ・アセスメントの話が中心となり、大変勉強になりました。
- ・就Bアセスの代わりになるものという認識です。今後どのような運用が必要になるのか、行政交えて話ができれば良いのかなと思います。
- ・自分自身もっと具体的に知る必要があると思いました。
- ・基礎的な部分から教えていただいたので、とてもわかりやすく、良き学びとなりました。
- ・これから始まる就労選択支援事業についてより考えを深められるいい機会になりました。就労選択支援事業を進めていくのは手探りになると思います。星明さんも言われていたように行政と相談しながら、その地域に合ったサービスを作り上げていかなければいけないのだと思いました。形骸化しないために各事業所も行政も主体的に関わっていく必要があると感じました。

(2)「日々の支援で大切にしていること」について

- ・働き方を希望に合わせて、利用者のステップアップを応援している様子がよく分かり、とても良いなと思いました。
- ・前段が就労選択支援のお話だったので、「日々の支援」についても、それとの関連を視点においた内容であればと思いました。

- ・色々な活動をされていておもしろいと思いました。作業面だけでなく、利用者の声を聞く時間を設けてあるのがステキだと思いました。
- ・家族なので、支援者の方とのコミュニケーションが大切だと思います。
- ・ひまわり園の方が支援において大切にしている事は、私の職場でも共通していることがあり、共感しました。
- ・すでに就労を利用している方は対象になるかはわかりませんが、今働いている方たちにもより稼げる、より自分に合った仕事を求める権利はあるので福祉就労で満足する方もいるでしょうが、全員がそうではないと思いますので意向に応じて訓練や情報提供は続けていきたいと思います。
- ・できないから諦めるのではなく、できるように工夫することの大切さを改めて感じました。
- ・利用者が笑顔で働けるように
- ・ひまわり園の各事業所で取り組まれていることを詳しく教えていただき、福祉を利用しながら働いている方々の姿が見え、また、支援の中で一人一人の思いを大切にしながら進めておられることを感じられました。
- ・工夫されて取り組んでいる様子を知ることによって来て良かったです。
- ・多様な作業のメニューが用意されていて感心しました。その分スタッフのスキル習得も大変だなと思いました。
- ・一人一人の思いと、表出、受け止め。コミュニケーションですね。
- ・ひまわり園さんが丁寧に個々にあった支援をされていることがわかりました。
- ・苦手なことやできないことばかりでなく、好きな事や取り巻く環境など何気ない話をすることも大切にしています。
- ・素晴らしい取り組みの数々でした。大きな法人が故の強みが活かされていると思いました。
- ・地域の事業所について知ることができました。工賃を上げるための工夫なども知ることができて勉強になりました。機会があればパンを買いに行ってみたいです。

4 分からなかったこと、質問しきれなかったことがございましたら、ご記入をお願いいたします。

(回答 4件)

- ・就労選択は本人が決めるということですか？
- ・一般就労先は、就労選択支援事業所または相談支援事業所が探すことになるのか？
- ・重度の障がいのある人が重度訪問介護などを活用して、短時間の就労を希望された場合、「重度障がい者等就労支援特別事業」の活用をするなどの「どのような働き方ができるか」なども就労選択支援事業所でアセスメントの中でしてもらえるのか？
- ・実際に就労選択支援を利用した例（当事者、事業所）を聞いてみたい。
- ・まだまだ具体的に知る必要があり、実際どの様に実施されているのかも今後も知りたいと思いました。

5 その他、研修の開催時期、時間帯等ご意見がございましたら、ご記入をお願いいたします。

(回答 3件)

- ・貴重な学習会ありがとうございました。就労選択支援について少しイメージが持てて、とてもありがたかったです。
- ・今回のように新しい制度などは、圏域で勉強会を開催して頂けると非常に助かります。こちら ZOOM の状態が悪かったが、ハイブリットでして頂けると学びの機会を増やすことができます。ありがとうございました。
- ・就労支援をする上で、スタッフが身に付けることが望ましいと思われるスキルや知識の洗い出し。

<アンケート4について学習会後に、講師：星明氏に確認した内容>

就労選択支援は、「どのような働き方が本人に向いているか」「どのような支援を使えば働きやすいか」「本人・家族が希望する就労形態や時間帯（短時間など）をふまえて、可能な選択肢を一緒に考える」などの支援を受けることができます。

ただ、「どのような制度活用が有効か」までを就労選択支援で示してくれるかどうかは、就労選択支援の事業所によって違いがあるかと思います。